

## 施策の展開 Ⅲ「高い意欲と能力のある人材育成と経営体のレベルアップ」

～「健全かつ活力ある水産業の構築」（条例第8条第1項第3号関係）～

### 【取組状況・成果】

#### 1 効率的で安定的な経営体の育成

経営管理能力の向上による効率的で安定的な漁業経営体の育成を目指して、地域の中核的漁業者や意欲のある漁業者等を対象に、簿記研修の開催や個別経営体への経営診断、経営改善に向けた指導・支援を行いました。

また、漁業経営の近代化等を図るために必要な資金の融資及び利子補給を行うとともに、漁業共済制度への加入を促進し、漁業経営の維持安定を図りました。

### 【平成20年度の主な実績・成果】

#### (1) 中核的漁業者の育成及び協業化又は法人化の取組支援

中核的漁業者及び制度資金活用者を対象に経営改善に向けた指導・助言を実施しました。また、経営改善計画認定者に対し、計画の適正な遂行のための支援を行いました。

[農林水産経営支援課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

※平成20年度実績

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| a. 中核的漁業者支援       | 3経営体  |
| b. 制度資金活用者支援      | 1経営体  |
| c. 漁業経営改善計画既認定者支援 | 14経営体 |

#### (2) 漁家経営における経営管理能力の強化

イ 中小漁業者の経営管理能力向上と財務体質の改善を図るため、パソコン簿記講習会等の経営研修会を企画実施しました。

[農林水産経営支援課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

※平成20年度実績

- |         |     |
|---------|-----|
| a. 集団指導 | 5集団 |
|---------|-----|

ロ 円滑な経営指導と県内の経営指導体制の充実を図るため、漁協営漁指導職員及び水産業普及指導員を対象とした経営指導基礎研修会を実施するとともに、財務・税務基礎研修へ水産業普及指導員を派遣し、経営指導の向上に努めました。

[農林水産経営支援課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

※平成20年度実績

- a. 経営指導基礎研修会 1回 (※34名参加)
- b. 財務・税務基礎研修 1回 (※水産業普及指導員2名参加)

ハ 厳しい経営環境に直面する漁業者が、各種支援施策による経営改善の取組を効率的に推進できるよう、水産業界が連携した経営相談・支援体制の充実を図るため、業界内に開設した「水産業経営相談室」に対して支援を行いました。

[農林水産経営支援課]

※ 平成20年度実績

経営相談件数：26件

各種経営支援：86件

### (3) 漁業経営安定のための漁業共済制度の活用推進

漁業者に対する漁業共済制度の理解の推進及び共済への加入促進を図るため、宮城県漁業共済組合の加入促進活動に指導・助言を行うとともに、同組合と水産業普及指導員が連携して、地区説明会や各種研修会時に説明を行う等啓発普及に努めました。

また、現行の漁業共済保険機能に加え、比較的浅い収入減少による漁業経営の影響を緩和する全国的な制度である「漁業経営安定対策事業(積立ぶらす)」の活用促進を図るため、宮城県漁業共済や宮城県漁業協同組合、系統機関と連携し、本制度の普及に努めた結果、13経営体が積立ぶらすに加入することとなりました。

[農林水産経営支援課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

※ 平成20年度実績

積立ぶらす加入実績：13件

のり養殖経営体 : 8経営体

ぎんざけ養殖経営体 : 5経営体

### (4) 経営コストの削減及び各種制度資金の効率的な活用

漁業経営の近代化、資本装備の高度化の推進、経営不振者の再建等を図るため、制度資金の融通、利子補給及び預託による協調融資を行いました。

[農林水産経営支援課]

※平成20年度実績

- a. 利子補給等 56,845千円
- b. 預託 1,700,000千円
- c. 貸付 103,835千円

## 【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
農林水産経営支援課	1,975,325 [1,867,325]	漁業経営改善支援強化事業 水産金融対策事業
水産業振興課	4,792 [208]	漁船漁業構造改革促進支援事業

## 2 人材の育成と確保

将来にわたり水産業を担う人材の育成と確保を図るため、就学者を対象とした漁業体験学習や青年・女性漁業者等を対象とした学習会等を実施したほか、担い手団体が実施した研修事業、研究活動及び魚食普及等の活動に対して助成・指導を行い、地域漁業及び次代を担う意欲と能力にあふれる担い手の確保・育成に取り組みました。

### 【平成20年度の主な実績・成果】

#### (1) 漁業士、青年・女性漁業者等の人材育成

イ 漁業士として地域振興に係る実践力向上を図るため、千葉県勝浦市等において、千葉県漁業士会との情報交換、産直飲食店への取組に関する内容の漁業士視察研修事業を実施しました。

[水産業振興課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

ロ 水産業改良普及活動を通じて、青年・女性漁業者等を対象に漁業技術・経営管理の向上のための学習会・先進地視察研修会を8回実施しました。

また、漁協青年グループ及び女性グループの自主的活動を促進するため、日ごろの研究活動及び地域活動を発表する青年・女性漁業者交流大会を開催しました。

さらに、中核的漁業者協業体として認定された2グループに対して、種苗生産技術、経営管理、補助事業実施に係る事務手続等について指導・支援を行いました。

[水産業振興課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

ハ 県単位で組織する沿岸漁業担い手団体である宮城県漁協青年団体連絡協議会が実施した「水産青年フォーラム」及び宮城県漁協女性部連絡協議会が実施した「みやぎの海の子作文コンクール」等の担い手育成事業に対して支援を行いました。

[水産業振興課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

## (2) 水産業の次代を担う人材等への教育的取組の推進

水産業への理解を深めるため、小学生を対象とした「海の先生出前講座」を漁業士会南部支部が開催するとともに、中学生から大学生までを対象とした就業体験学習会及び漁業啓発学習会を実施しました。

中学生については、気仙沼地区（44人参加）と石巻地区（18人参加）の2地区で、それぞれ水産業に関する幅広い基礎知識を総合的に習得する学習会を2日間実施しました。

高校生、大学生については、水産高等学校生徒（5名参加）を対象に実践的な就業体験学習を実施しました。

[水産業振興課，仙台・東部・気仙沼地方振興事務所及び水産技術総合センター]

## (3) 遠洋・沖合漁業従事者の育成

漁業就業者不足の深刻な状況に対処するため、漁業就業者の確保のための各種イベントにおいて宮城県の出展ブースを設け就業希望者への支援を行いました。

[水産業振興課]

※平成20年度実績 本採用10名

## (4) 人材育成のための他産業との交流促進

本県農林水産業の各担い手団体が一堂に会し、山・里・海を取り巻く環境をテーマとして、各産業の現状を視察しながら様々な問題や課題について検討するとともに、環境に対する意識を深め生産活動へ反映させていくことを目的とした一次産業交流会の開催を支援しました。

[水産業振興課]

## (5) 起業及び漁村文化の伝承における女性及び高齢者の役割充実

農山漁村の女性団体が主催する「農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会」を後援するとともに、漁村女性の起業化と経営の安定化を目的として、「魚食と漁協女性部の役割」、「水産物の価格向上，付加価値向上」等について、宮城県漁協女性部連絡協議会の会員を対象に経営等改善講習会を開催する等、女性団体の活動を支援しました。

[水産業振興課]

### 【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業振興課	5,073 [4,637]	沿岸漁業担い手活動支援事業(再掲) 漁船漁業担い手確保育成事業 水産業改良普及事業

### 3 水産業に関する団体の育成強化

水産業の振興、漁村地域の活性化等の中核となる水産業協同組合組織の強化を促進し、かつ、健全な育成を図るため、系統団体と連携し一県一漁協体制の構築を推進するとともに、指導及び常例検査等を通じて適切な業務執行体制の確保及び経営改善に努めました。

また、各水産業協同組合及び水産加工業協同組合の任意組織である青年部・女性部・研究会等の育成強化を図るため、これら組織が企画する各種研修会への講師派遣及び組織の運営協力等を行いました。

#### 【平成20年度の主な実績・成果】

##### (1) 漁協の指導・販売事業の強化及び広域合併の推進

イ 水産業協同組合の業務及び会計の状況について、合法性、合目的性及び合理性等の観点から検査を実施し、組合の健全な運営の促進及び執行体制の強化を図りました。

[農林水産経営支援課]

※平成20年度実績 18組合

ロ 安定的な経営・事業運営基盤の確立のため、一県一漁協体制構築の取組に対する指導・支援を行いました。

その結果、沿海2漁協が新たに合併決議を行いました。

[農林水産経営支援課]

##### (2) 漁協等の研究会・青年部・女性部等担い手組織の育成強化

イ 市町単位を活動の範囲とした漁協青年グループ1団体が実施したアワビ養殖試験を支援しました。

[水産業振興課及び仙台地方振興事務所]

ロ 水産業改良普及活動を通じて、各水産業協同組合の任意組織である青年部等の育成強化を図るため、これら組織の運営を指導するとともに、各種研修会への講師派遣や組織の運営協力等を行いました。

[水産業振興課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

ハ 気仙沼、石巻、女川、塩釜の各地区の水産加工研究会及び当該4団体が構成する宮城県水産加工研究団体連合会の事業について支援しました。

[水産業振興課及び仙台・東部・気仙沼地方振興事務所]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
農林水産経営支援課	3,491 [2,288]	水産業協同組合指導事業 漁協組織強化事業 水産業協同組合検査事業
水産業振興課	4,167 [3,475]	沿岸漁業担い手活動支援事業(再掲) 漁船漁業担い手確保育成事業(再掲) みやぎの誇れる水産加工品PR事業(再掲)

#### 4 労働環境の整備

後継者、女性及び高齢者の労働条件の緩和及び安全性の向上に対応するため、省力化・近代化施設及び効率的で安全な漁港づくりを推進し、労働環境の整備に努めました。

#### 【平成20年度の主な実績・成果】

##### (1) 省力化・近代化施設の整備及び効率的で安全な漁港づくりの推進

イ 安心・安全なかき生産を行うために宮城県漁業協同組合(気仙沼地区支所)が実施した共同かき処理場冷却滅菌海水製造機器施設整備に支援しました。

[水産業基盤整備課及び気仙沼地方振興事務所]

ロ 生産の効率化を図るために宮城県漁業協同組合(宮戸西部支所)が実施した海苔共同加工処理施設整備に支援しました。

[水産業基盤整備課及び仙台地方振興事務所]

※平成20年度の漁港整備実績

事業名	概要
特定漁港漁場整備事業	水産物の生産及び流通の拠点整備を目的とし、気仙沼漁港外2港で外郭・係留施設等の整備を実施しました。
広域漁港整備事業	水産物の生産及び流通の拠点整備を目的とし、松岩漁港外8漁港で外郭・係留施設等の整備を実施しました。
地域水産物供給基盤整備事業	地域における水産資源の維持及び増大並びに水産物の生産及び流通機能の強化を図るため、狐崎漁港外10漁港で外郭・係留施設整備を実施しました。
漁港改良事業費	補助対象とならない漁港施設の改良を行うもので、15漁港で実施しました。
漁港再生交付金	漁村の再生を支援するため、地域の既存ストックの有効活用等を通じた、生産基盤と生活環境施設の効率的整備を行うもので、宿舞根漁港ほか2漁港で事業を実施しました。

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業基盤整備課	3,293,734 [2,646,666]	養殖水産物ブランド化推進・強化事業(再掲) 特定漁港漁場整備事業 広域漁港整備事業 地域水産物供給基盤整備事業 漁港改良事業費 漁村再生交付金

## ○漁業者団体の活躍（その2）

### 全国青年・女性漁業者交流大会における農林水産大臣賞，水産庁長官賞受賞

（関連事業：沿岸漁業担い手活動支援事業）

#### 1 経緯

全国青年・女性漁業者交流大会は、全国の青年・女性漁業者が日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、広く相互の知識や研究を交流し深めることによって、水産業・漁村の発展・活性化のための技術・知識等を研鑽することを目的として、全国漁業協同組合連合会の主催により、毎年開催されているもので本年で14回目となります。

本県からも毎年、青年部および女性部の各代表の2団体が参加しています。

#### 2 概要

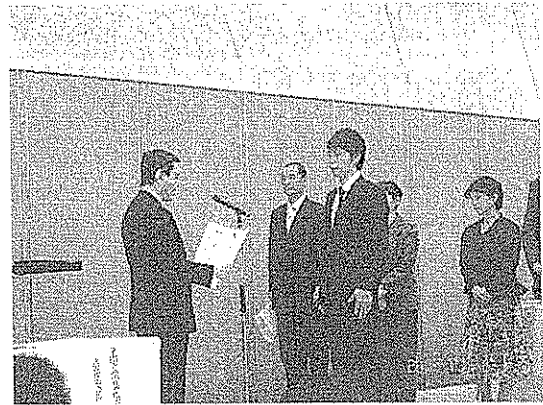
平成20年度の全国青年・女性漁業者交流大会は、平成21年3月5、6日に東京都港区の虎ノ門パストラルにて開催され、5分科会に全国から51団体が参加しました。

本県からは、昨年8月に七ヶ浜町で開催された宮城県青年・女性漁業者交流大会において最優秀賞を受賞した矢本漁業協同組合（現宮城県漁業協同組合矢本支所）矢本浅海漁業研究会と宮城県漁業協同組合網地島支所女性部の2団体が参加しました。

「漁業経営改善部門」に参加した矢本浅海漁業研究会の津田晃樹さんからは「ノリ三期作の経済的な評価と今後の課題 ～ノリの品質と単価のさらなる向上を目指して～」と題して、これまでの一般的な二期作から三期作に転換し高品質のノリを生産する取組について、品質や販売単価、作業量や収入・経費等の面から調査・研究した成果が発表されました。その結果、当部門の第一位にあたる農林水産大臣賞を受賞しました。

同研究会においては、地元で生産される乾海苔が塩竈神社の品評会でも4年連続で上位に入賞し、皇室に献上されていることから、今後もさらに高品質のノリが生産出来るよう、研究を続けていくこととしています。

「多面的機能・環境保全部門」に参加した網地島支所女性部の小野寺たつえさんからは、「おいでよ、網地島へ！～活気ある島の復活を目指した取組～」と題して、過疎化と高齢化が進む網地島にかつての活気を取り戻し、島民が幸せと希望を持って生活できる島の復活を目指した取組について発表し、水産庁長官賞を受賞しました。女性部と島民が一体となって取り組んだ高齢者への生活支援や福祉活動、島外の子供たちとの交流活動は高齢者や島民の不安を和らげ、島民の元気を取り戻す大きなきっかけとなりました。近年は島へのUターンや新規移住者が増加しており、今後も引き続きこれらの活動を通じて活気ある島の復活と島の魅力の発信に努めていくこととしています。



第14回全国青年・女性漁業者交流大会における矢本浅海漁業研究会の表彰

（仙台・東部地方振興事務所水産漁港部）



## ○パソコン簿記による経営管理について

(関連事業：漁業経営改善支援強化事業)

### 1 経緯

将来に亘る水産業の継続には、所得の向上と安定した所得を確保することが必要であり、そのためには技術力・情報活用力に加えて「経営管理能力」が不可欠とされています。特に、近年の厳しい経営環境下においては、自己の経営状況を的確に把握し、慎重な経営計画を作成の上、経営改善に取り組むことが必要とされます。しかし、多くの漁家経営体では、家計と経営が明確に分離されておらず、いわゆるドンブリ勘定といった状況にあります。

先の経営改善に取り組む上で、先ずこうしたドンブリ勘定から脱却し、複式簿記による家計と経営の分離が不可欠であり、素人でも複式簿記に取り組める「パソコン簿記」の普及支援を行っております。

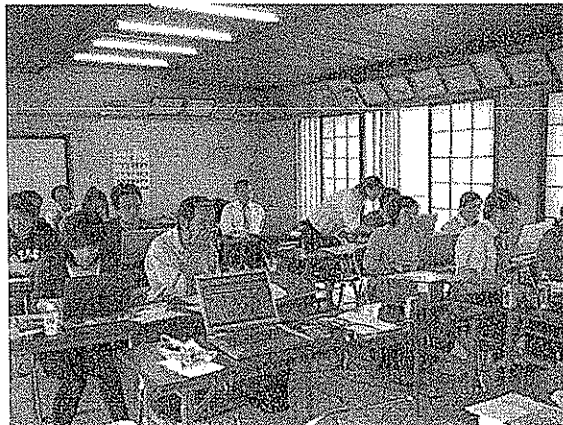
### 2 概要

- 目的：個々の経営状況を自分で入力することで経営管理能力の向上を図り、最終的にパソコンを用いて青色申告決算書を作成することを目的とする。
- 講習会講師：民間のパソコンスクール講師、水産業普及指導員
- 実施時期：受講者の希望を優先の上調整
- 実施場所：漁業協同組合事務所、公民館等
- 講習会時間：12～16時間
- 講習会定員：10名程度
- 準備する物：パソコン、パソコン簿記用ソフト及びテキスト料（13,000円程度）

### 3 取組状況

平成20年度は、県漁協4支所延べ19名に対してパソコン簿記講習会を開催しました。そのうち、10名がパソコン簿記により青色申告決算書を作成することができました。

自分で青色申告決算書を作成できた達成感とともに、経営管理の必要性を実感された方も多数みられました。また、定期的に支所に集まり、各々が入力作業を行うようなグループ活動にまで発展した支所もありました。



### 4 今後の取組

国や県の支援策には、複式簿記による経営管理を行っていることを要件とするものが多く展開されるようになってきました。パソコン簿記の短期的な目標は、青色申告決算書を作成することではありますが、決算書を税務申告のみで終わらせるのではなく、その決算書から経営実態を把握するとともに、今後の経営計画の作成や経営改善を図ることが大事です。

今後とも、平成20年4月に開設した水産業経営相談室や宮城県漁業協同組合との連携を図り、パソコン簿記の普及支援に努めるとともに、経営管理能力の向上を図るべく決算書の読み方等、経営研修会の開催も行っております。

(農林水産経営支援課)

## ○漁船員の雇用確保対策

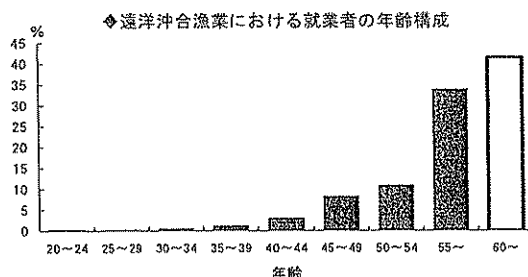
(関連事業：漁船漁業担い手確保育成事業)

### 1 経緯

漁業就業者は、年々減少傾向にあり、特に遠洋・沖合漁業では、船舶を運航する海技資格を有する幹部乗組員の高齢化が進んでおり、このままでは、漁船を運航する乗組員がいなくなり、操業することができず水産物の安定供給が困難となってしまいます。

そのため、県では乗組員の高齢化が進んでいる遠洋・沖合漁業の新規就業者と幹部乗組員を確保するため「就業促進フェア」を開催する団体に対し支援しています。

平成20年度は、宮城県北部船主協会が気仙沼市内において「船員就業フェア」を開催しており、民間団体では初めての開催となりました。



### 2 概要

#### ◆船員就業フェアの開催状況

「船員就業フェア」の当日は、気仙沼市内の遠洋・近海まぐろはえ縄漁船を所有する事業所12社が出展し23人の乗組員を募集したところ、乗組員希望者27人の来場があり、そのうち3人が30歳未満の未経験者でした。

事業者と乗組員希望者との面接の結果、未経験者3人を含む10人が採用されました。

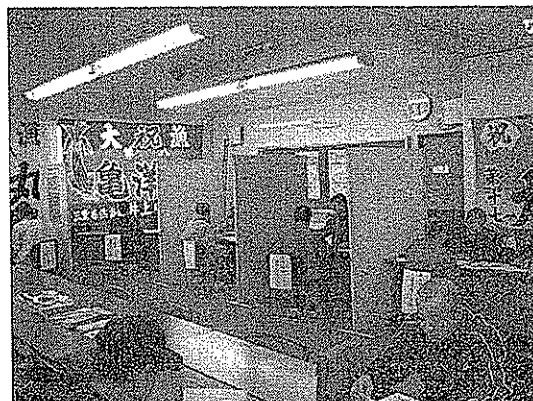
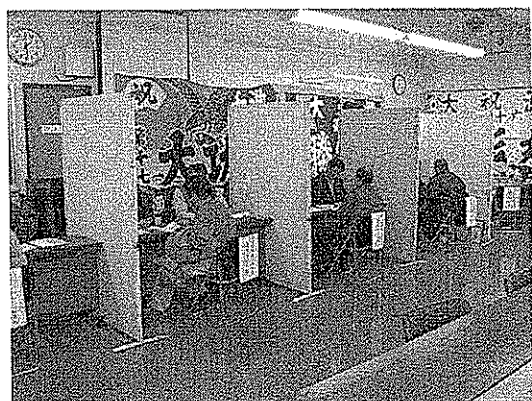
#### ～ 船員就業フェアin気仙沼 ～「就職面接会」

日時：平成21年3月21日（木）午後1時30分～午後4時まで

会場：気仙沼市水産振興センター（宮城県気仙沼市弁天町1-8-10）

主催：宮城県北部船主協会（事業主体）

#### <事業者と乗組員希望者との面接風景>



(水産業振興課)

## ○人工地盤の整備について

(関連事業：特定漁港整備事業)

気仙沼魚市場の南側施設は築後50年を経過したため老朽化が進んでおり、市場機能の向上を図るため HACCP 方式対応の改修計画が進んでいました。一方では、市場関係者の車両についての駐車場用地が不足状態となっており、臨港線跡地や路上駐車、民間駐車場を利用している状態となっていました。今回、市場の改修に併せて不足する駐車場用地を確保することで計画調整を図ったものです。

### 1 整備状況

気仙沼漁港は、平成14年度を初年度とする「漁港漁場整備計画」により特定漁港整備事業として現在整備を進めております。

計画のなかで「人工地盤」については、漁港で不足する駐車場用地を魚市場改修計画に併せ屋根部分を駐車場として整備するもので市事業との共同施工となります。

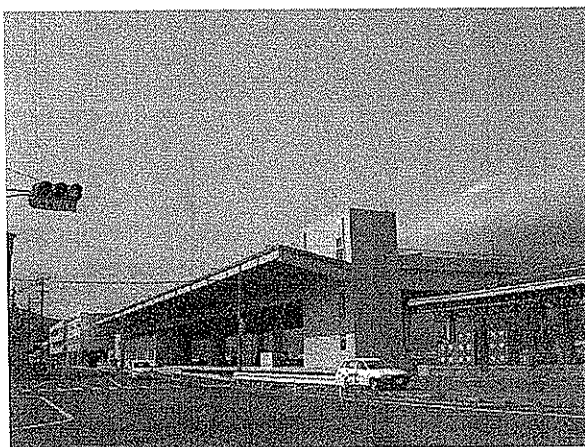
事業の進捗としては、費用負担及び施工区分について県(漁港管理者)と市(魚市場管理者)の間で平成17年8月に基本協定を締結し、平成17年の9月に工事着手しました。

1期工事については、平成19年度に、2期工事については平成20年度末にそれぞれ完成しており供用開始しています。

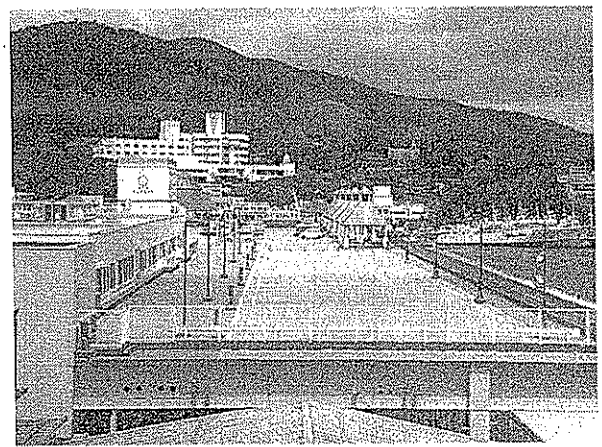
### 2 人工地盤の概要

- (1) 対象事業区間：L=223.0m(魚市場改修計画A棟，B棟区間)
- (2) 人工地盤駐車台数：192台(市場関係者)※駐車場所用面積A≒5,250m<sup>2</sup>
- (3) 全体事業費：約940百万円(県負担87.8%，市負担12.2%)
- (4) 施行方法：合併対象事業費を気仙沼市単独事業として漁港事業の優先支出合併
- (5) 合併施行に伴う基本協定：平成17年8月に締結
- (6) 整備年次：平成17年度～平成20年度
  - (1期工事)平成17・18年度：人工地盤L=124.0m
  - (2期工事)平成19・20年度：人工地盤L=99.0m

※2期工事完成(人工地盤については指定管理者の気仙沼市に委託)



魚市場及び関連施設



人工地盤(駐車場)

(水産業基盤整備課、気仙沼地方振興事務所水産漁港部)

